

建築の枠を超えた討論を展開

「環境の世紀と建築家」をテーマに、2007年10月17日～20日の日程で日本建築家協会（JIA）大会が開催された。

多くの討論会が行われ、地球温暖化問題だけでなく、「農村再生」や「建築廃棄物」の問題まで、広範で活発な議論が展開された。

「ストックの時代」をテーマにした討論会では、政府の理念と設計現場とのギャップが浮き彫りになった。この討論会は井口直巳氏（井口直巳建築設計事務所代表）が司会を務め、5人の討論者が参加した。

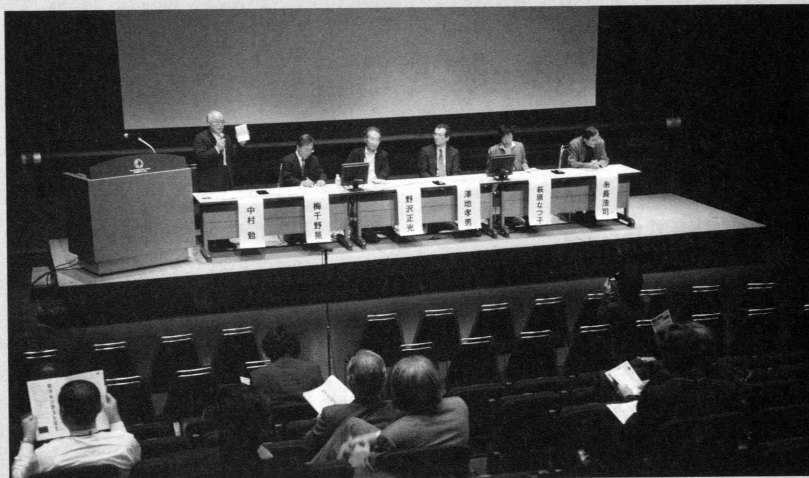
討論者の一人である青木茂氏（青木茂建築工房代表）は旧耐震建築物の改築事例を紹介。「建物を解体して新築する場合のCO₂排出量は約65tになるが、躯体を再利用する改築のCO₂排出量は1t。排出量を65分の1に削減できる」と詳細なデータを示して説明した。

政府方針と矛盾する法制度

さらに、青木氏は確認申請の問題点を指摘した。

「国はストック社会と言うが、既存建築の改築の確認申請は新築の何倍もの書類が必要になる。81年以前の旧耐震基準の建築は耐震新計算など安全性の確認が必要。しかし、役所では改築申請に対応できないのが実情だ」。

加えて今年6月にスタートした建築基準法改正は「ストック社会や環境問題を考えていない“場当たりの



上 「JIA建築家大会2007 東京」の9月17日のパネルディスカッション。中村勉氏（左端）がモデレーターを務め、「2050年からのバックキャスト」をテーマに議論を交わした中「ストックの時代」をテーマにした討論会

下 基調講演をするジェレミー・ハリス・米ハワイ州元ホノルル市長。ホノルル市は住民参加によるエコシティを実現し、注目を集めた（写真：井上 雅義）



改正”だった」「国交省と環境省のスタンスが違う」など、青木氏は行政を批判した。この問題提起に討論会は盛り上がった。

基調講演では、ジェレミー・ハリス・米ハワイ州元ホノルル市長が、住民参加によるエコシティの成果

を報告した。

ホノルル市は、ホノルル在住の建築家を中心となって、住民をリードし、持続可能な都市に再建した。ハリス氏は、「建築家は都市環境をつくるリーダーとなるべきだ」と強調した。